



当院で行っている研究紹介 ～アートサイコセラピー～

臨床研究部・アートサイコセラピストの森です。2013年に四国こどもとおとなの医療センターが出来た当時は臨床研究部に小児精神・神経発達研究室という長い名前の研究室がありました。現在研究室はなくなりましたが、当時から続いているアートサイコセラピーの研究についてご紹介致します。

アートサイコセラピーは心理療法の一形態で、名前の通り Art (アート) と Psychotherapy (心理療法) が組み合わさったものです。通常の心理療法は言語でやり取りされる事が多いですが、アートサイコセラピーでは非言語的な視覚表現(アート)も多用されます。美術制作やアクティビティとは異なり、作品を完成させることを目的とはせず、制作活動のプロセスの中で色々な形で現れる言葉にならない思いや気持ちを扱うため、参加者は美術的な技術や経験の必要がありません。言語的に未発達な子どもに適しており、治療へ繋げる為のモチベーションにもなります。またトラウマや死別など、言葉のみで扱うには難しいケースへの介入では参加者自身のペースで行うことができるため、子どもから大人まで適用されます。母子で行う場合もあり、母子間での情緒的な交流について、もの作りを介して展開させていきます。



病棟へはカートに画材を乗せて行きます

現在こどもを対象とした「こどものこころに関わる研究」と、周産期の女性や子どもを亡くした母親、育児不安を抱えている母親が参加している、「母親を対象とした研究」を行なっています。児童精神科、児童心療内科だけでなく、小児科、周産期医療センター、地域医療連携室、育児支援対策室などから紹介された方が参加され、病棟や外来で個人やグループでのアートサイコセラピーを行なっています。

アセスメントを行なったあと、適性を評価し必要な場合は他職種間で連携を行い、支援の方向性を確認しながら進めていきます。スクリーニングの目的もありますが、アートサイコセラピーを介して参加者の不安がどのように変化するかを Profile of Mood States 2nd Edition (POMS2) 検査を用いて評価します。また、

育児不安の強い場合は Parenting Stress Index (PSI) という親の育児ストレスを測定する検査を行い、育児に関するストレスがどのように変化するかを観察します。



左が POMS2, 右が PSI の検査用紙です

興味のある方やお問合せは
森 (研究員・アートセラピスト) までご連絡ください

臨床研究部について

臨床研究部は、研究以外にも、研究に関する情報発信としての臨床研究部講座の開催や News Letter の発行、臨床研究推進のための院内助成金制度による研究支援、医薬品の開発のための治験への取り組み、国立病院機構のネットワーク研究への取り組みなどを行っています。

2020年4月から下記の6研究室で構成されています。

- 周産期医療研究室
- 小児ゲノム医療研究室
- 難病性疾患研究室
- 病因病態研究室
- 脈管治療研究室
- 治験管理室

場所はこもればいホールの横の緑色で示した部分です



本年度の臨床研究部講座の予定は下記の通りです。

講座名	日時(予定)
1. 研究をはじめよう ～Clinical Question, Research Questionとは～	6月18日(木) 17:30～18:00
2. 文献を検索して論文を読む	7月14日(火) 17:30～18:00
3. 研究計画書の書き方	7月30日(木) 17:30～18:00
4. 特別集中講義1	8月6日(木) 17:30～18:00
5. 臨床研究における同意取得方法	8月27日(木) 17:30～18:00
6. 統計入門	9月17日(木) 17:30～18:00
7. 特別集中講義2 ～院内雑誌への投稿 初心者編～	10月15日(木) 17:30～18:00
8. 治験を進めよう ～CRCの活動～	11月12日(木) 17:30～18:00
9. 投稿時のマナー	12月10日(木) 17:30～18:00
10. 学会での発表のコツ	1月14日(木) 17:30～18:00
11. 症例報告・論文を書こう	2月18日(木) 17:30～18:00

現在進行中の治験について

- 責任医師： 岡田 隆文先生 (小児科)
 対象疾患： R Sウイルス感染症
 対象年齢： 1歳以下
 試験名/投与方法： MELODY 試験/筋肉注射
 開発相/デザイン： 第Ⅲ相/ランダム化プラセボ対照二重盲検試験



RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus infection) は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。現在、RSウイルス感染症の予防薬であるパリビズマブは早産児や先天性心疾患などの基礎疾患を有し、重症化のリスクがある乳幼児へ適応があり、RSウイルスの流行初期から1か月毎の筋肉注射が必要です。

現時点では、健康な乳幼児に幅広く適用される承認済みのRSウイルス予防薬および活動性RSウイルス感染の治療薬はありません。MELODYは被験薬に着目し、その安全性を確認するとともに、それが健康な乳児における呼吸器合胞体ウイルス(RSV)疾患の予防において効果を発揮するかどうかを確認する臨床研究試験です。

